

災害の特徴比較

比較項目	火山災害	大規模水害(河川氾濫)	大規模水害(高潮)	通常の水害	大規模地震	
被害事象	時間変化	<ul style="list-style-type: none"> ・発災前から予兆がある ・予兆が短く突然発災する場合もある ・発災直後に急激に変化する現象とそうでない現象など、現象によって被害様相の時間変化が多様である 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災(堤防決壊)前から予兆がある ・発災後は氾濫域の拡大から収束まで長期間にわたり被害様相が変化する 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災(堤防決壊)前から予兆がある ・堤防の決壊後は、短時間に沿岸部のゼロメートル地帯を中心に浸水被害を受けるが、被害の収束までには多大な時間を要する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害様相の時間変化が比較的短期間で発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に予兆なく突然発災する ・発災直後に一瞬にして被災する(火災延焼等の一部の事象を除く)
	空間的広がり	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の対応力を遙かに超える被害が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の対応力を遙かに超える被害が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の対応力を遙かに超える被害が発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の対応力で対応可能な程度に被災する 	<ul style="list-style-type: none"> ・通常の対応力を遙かに超える被害が発生する
		<ul style="list-style-type: none"> ・被害は火山のある場所で発生する ・被害は火口を中心に限定的である場合もあるが、現象によって広域的に広がる場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、堤防の決壊箇所近傍から下流域の平野まで広大な地域で面的に広がる一方、全く無被害な地域も存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、沿岸のゼロメートル地帯を中心に面的に広がる一方、全く無被害な地域も存在する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地域(浸水地域)が限定的な場所に留まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地内において被害を受けている施設と受けていない施設が混在している
	被災地外への波及影響	<ul style="list-style-type: none"> ・波及影響が被災地とその周辺地内に留まる場合もあるが、ときには波及影響が被災地域以外の全国、世界に波及する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・波及影響が被災地域以外の全国、世界に波及する 	<ul style="list-style-type: none"> ・波及影響が被災地域以外の全国、世界に波及する 	<ul style="list-style-type: none"> ・波及影響がある程度被災地とその周辺地域内に留まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・波及影響が被災地域以外の全国、世界に波及する
	発生頻度	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度は低い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度は低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度は低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度が高い 	<ul style="list-style-type: none"> ・発生頻度は低い
対応活動	発災前	<ul style="list-style-type: none"> ・火山情報の発信や避難誘導をはじめとする被災回避行動をとれる ・予兆を捉えられる場合もあるが、捉えられても発災まで時間が短く、被災回避行動をとることが難しい場合がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・予警報の発信や避難誘導をはじめとする被災回避行動をとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予警報の発信や避難誘導をはじめとする被災回避行動をとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・予警報の発信や避難誘導をはじめとする被災回避行動をとれる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的に予兆を捉えられず、事前の被災回避行動がとれない
	発災直後	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、現象によって火口を中心に広域に面的に広がり、被災地における防災関係機関の対応機能がほとんど麻痺する場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、堤防の決壊箇所近傍付近から面的に広がり、被災地における防災関係機関の対応機能がほとんど麻痺する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、沿岸部のゼロメートル地帯を中心に面的に広がり、被災地における防災関係機関の対応機能がほとんど麻痺する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地域における自治体や関係機関の対応機能は稼働する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地域内でも一部の対応機能は稼働する
		<ul style="list-style-type: none"> ・被害を発生させる現象が多様 噴石・火砕流・融雪泥流等 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、浸水、流水による破壊等 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、浸水、流水による破壊等 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、浸水、流水による破壊等 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、地震動による破壊等
	応急期(被害の拡大~収束)	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は現象によって火口を中心に広域に面的に広がる ・火山の場合、溶岩流は、発生してからでも安全な場所への避難誘導等で被害軽減対応がとれるが、一瞬にして被災する火砕流などでは事前の避難が必要 ・噴火等が長期間継続することがある 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、堤防の決壊箇所近傍にとどまらず、下流域まで広大な地域に広がる ・氾濫域拡大までに長時間を要するため、堤防の決壊箇所近傍以外の地域では、安全な場所への避難誘導等の被害軽減や浸水被害の拡大対応がとれるが、対応の仕方によっては、被害が拡大する地域も発生する 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害は、ゼロメートル地帯を中心に短時間に広がるため、堤防の決壊後の被災回避行動や事前に避難行動をとっていない人の救援、被害拡大防止対応が困難である 	<ul style="list-style-type: none"> ・被害様相の時間変化は短期間で被害拡大防止対策の内容は限定的である 	<ul style="list-style-type: none"> ・一瞬にして被災し、避難誘導等の被害軽減や拡大防止対応は、火災延焼拡大防止等の一部にとどまる
復旧・復興期(被害収束後)	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地域の自治体や関係機関を中心とした対応が可能である場合もあるが、ときには国全体での対応が必要となる場合もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・国全体での対応が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・国全体での対応が必要となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地域の自治体や関係機関を中心とした対応が可能である 	<ul style="list-style-type: none"> ・国全体での対応が必要となる 	